

2021.10.10

ニリンソウ自生地保護 活動情報

赤塚公園ニリンソウ
を守る会

akatsukanironso@gmail.com

赤塚公園サービスセンター

03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村

090-8646-9757



・ニリンソウを守る会の活動

10/17 赤塚公園どんぐりまつり

10：00～15：00 中央地区サービスセンター前
(スタッフは9：30集合)

11月、12月の手入れ活動予定

11/7、11/14、11/21 雨天予備日 11/28

12/12 雨天予備日 12/19

いずれも日曜日 10：00 大門観察台集合

★誰でも参加できます！ 飛入り参加も歓迎！



草刈り作業第1日目 19名の参加で 予定通り進行

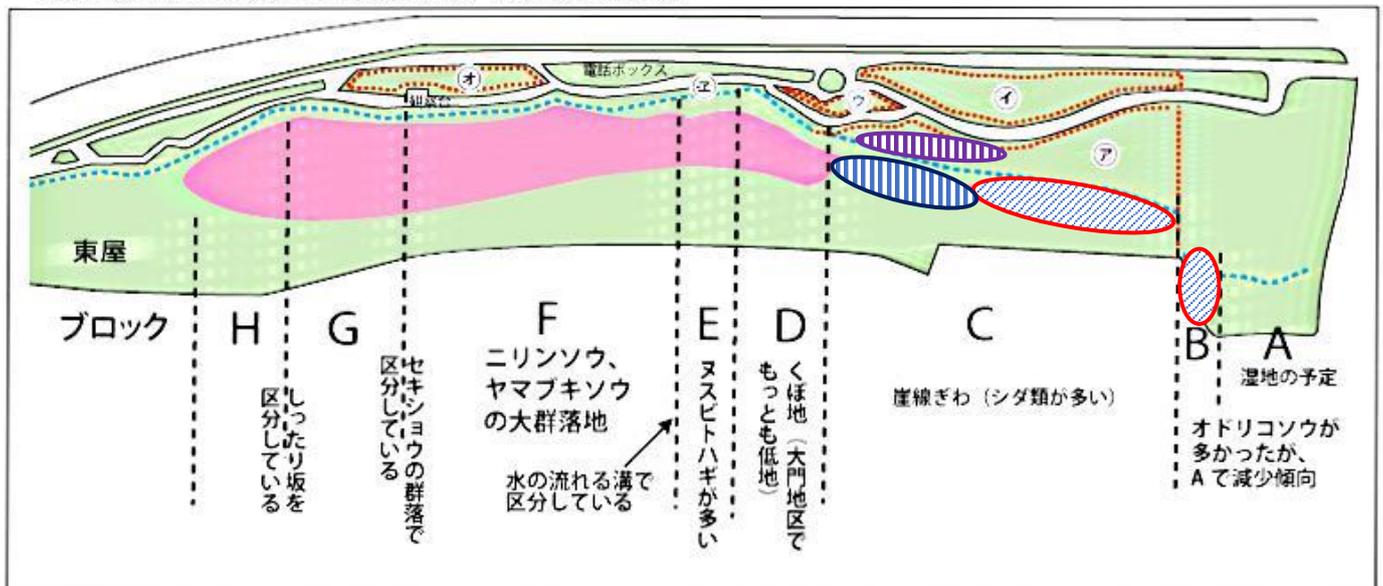
↑久しぶりに体を動かすので準備体操から開始！

9/12に観察会を兼ねて今年の手入れ計画を話し合いましたが、10/10、いよいよ実際の草刈り作業に着手しました。

下図が手入れの際のブロック分けです。例年にならって、大門地区の東側から取り掛かりますが、Aブロックは東京都による生物多様性保全エリアの「水場」が計画された場所で、現在は観察期間中なので手を付けず、BからCブロックの草刈りからスタートしました。

都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11.24 改定

・2020.8 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014年発行『残そう！崖線の自然』に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの。榮志代氏による監修。



BブロックとCブロック途中までの赤枠の部分はサービスセンタースタッフが機械刈りで施行。

守る会のメンバーは擬木柵の中の青部分に加えて、ロープ柵で囲まれた紫部分の草刈りにチャレンジしました。

ここは武蔵野台地の崖線が間際まで迫っていて、崖際には昔の農業用水の水路跡が残っている奥行き狭い部分ですが、東京都の生物多様性保全事業により、林縁（林のふち）の草原部分を広く確保するためにロープ柵が張られて保護エリアが拡大されました（㊦から㊧まで）。

作業の基本は、地表を覆っていて日の光が地面に差し込むことを妨げているキズタ、サネカズラなどの抜取りと枯残りの野草の刈取りでした。ウバユリの枯れ残りは冬の風情を残すためにそのままにしました。11月になると実の殻が弾けて種子が飛び散るはずです。

ロープ柵で囲われた生物多様性保全エリアですが、柵を設置してから2年間は放置して観察を続けてきました。想定した通りに林のふちの明るいところに生育する野草が出てきているので、生



↑ 地表を覆うキズタ
その根から引き抜く ↓



林の中に
咲き残っている花のいくつか

物多様性保全事業としては成功していると言えます。しかし、ヤブタバコなどが茂りすぎているために、今回は紫色でマークした㊦の西側部分でその刈り取りを試験的に行いました。

左の写真の右側がその部分ですが、さっぱりしました。この写真の左半分のロープ柵の中はそのまま残してあります。このように部分的に選択的に草刈りを試行してみて、今後の管理方針を定めていく予定です。



上段左からハグロソウ、ノブキ（今は実の状態）、下段ハナタデ（あちこちで満開）、イヌシヨウマ（秋の終わりのいちばん最後まで咲く花ですが、この数年、きれいに咲きません）

← 「保護活動マニュアル」と活動中に観察できる主な花約90種収録の「花の写真集」を手入れ活動参加の方に無料で差し上げます！

